さんだ生物多様性保全計画実施状況について（計画期間：令和５年度～令和12年度）　令和６年度評価調書　【基本理念】恵み豊かな自然を次世代へつなぐ

目標	基本方針	施策	具体的施策	令和６年度までの主な取組結果（実績値は令和６年度）	評価（評価区分：達成◎、順調に進捗○、停滞傾向△、見直し必要×）	課題
里山からの恵みがあふれ　人と自然が共生するまち	守る	生きものの生息・生育環境の保全・管理の推進	❶里山林・放置林の保全管理の推進 ❷公園・緑地、街路樹の適正管理	・集落周辺里山林整備事業を実施した（1件）。 ・資源循環型里山林整備事業を実施した（4団体、0.24ha）。 ・危険木伐採補助事業を実施した（申請24件、181本伐採）。 ・「さんだ桜まつり」で希望者に山桜の苗を230株配布するなど、地域苗による緑化を推進した。 ・あかしあ台地区にてニセアカシアからボダイジュへの樹種更新を行った（27本伐採、16本植樹）。	○　一部の地域で、里山林の整備、木竹の有効利用ができている。また、山桜配布による地域性種苗の導入、街路樹の適正管理ができている	・集落周辺里山林整備事業について、地域への事業周知を更に図り、推進する必要がある。 ・30by30の達成に向け、自然共生サイトの増加を図るため、市が率先して申請を進めるとともに、民間への啓発に取り組む必要がある。 ・集落柵整備は地元負担を伴うため、集落での合意形成が課題である。
		優れた生態系等の保全・管理の推進・自然共生サイト認定の推進	❶優れた自然環境の保全 ❷特に重要度の高い生態系等の保全及び重要性を啓発 ❸民間による自然共生サイト認定の支援	・ボランティア組織「皿池湿原の守り人」（個人68名、企業1社）、専門機関、地域住民との連携により、湿原特有の植物や昆虫類等564種が生息する環境の保全活動を実施するとともに、見学会や視察の受入を通じて、活動の重要性を参加者に発信した。 ・民間への支援に向け、まずは三田市が管理する場所を自然共生サイトに申請する検討を行った。	○　皿池湿原において、連携による保全活動や情報発信に取り組むことができた。	
		生態系保全も視野に入れた鳥獣及び外来種対策の推進	❶農林業や人に被害を及ぼしている生物対策 ❷その他の外来種対策	・有害な生物対策として、イノシシ91頭、シカ207頭、アライグマ493匹、ヌートリア18匹を捕獲した。 ・オオキンケイギクの駆除活動イベントを実施（5月開催、37人参加）し、駆除の重要性を周知した。 ・クビアカツヤカミキリが市内で初めて発見され、防除事業を実施した。	○　有害鳥獣対策、外来種対策等を推進できている。	
	育てる	学習・体験・養成プログラムの開催	❶保全活動地における各種プログラムの開催 ❷さぁふの森（市立有馬富士森林公園）など公園・緑地を環境学習や自然体験の場として活用 ❸県立人と自然の博物館などのプログラムとの連携	・里山保全の担い手育成を図るために、ブイブイの森まちなか里山セミナーを実施（7名参加）し、内2名が市内の保全活動団体に加入した。 ・皿池湿原において見学会（6・8月開催、124名参加）、視察受入（8団体）を実施した。 ・「皿池湿原の守り人」養成講座を実施（11名参加）し、内6名が加入した。 ・市内の小学生が参加する緑の少年団の活動として、さぁふの森での森の管理体験や、有馬富士公園での野鳥観察などを行った。 ・全小学校で小学3年生が、里山などで三田の豊かな自然を教材とした体験活動取り組んだ。 ・祥雲生きもの教室スペシャルに、こうみん未来塾枠として市内小中学生と保護者11名が参加し、講演等で生物多様性を学んだ。	○　子供から大人までを対象とした、里山や生物多様性の保全に関する環境学習・生涯学習の場を提供できた。	・里山保全の担い手養成講座への関心を高め、参加者を増やすため、魅力発信など広報の強化を図る必要がある。 ・誰もが利用しやすい情報交換の場を検討する必要がある。
		情報共有・情報発信・意見交換の場づくり	❶市内で保全活動に取り組む団体、事業者、学校等が集う場づくり ❷市からの情報提供など	・市および保全活動団体間の交流・情報交換の場としてロゴチャットを活用した。 ・保全活動団体と、県、市や民間企業の助成金情報、事故発生情報等を随時、メールやロゴチャットにより共有した。	△　市からの情報発信は一定できたが、活発な意見交換はなされなかったため、ロゴチャットは同年度で取組終了とした。	
	活かす	里山で得られる資源の活用促進	❶木の駅プロジェクトの整備 ❷アウトドアレクリエーションの場として活用 ❸農地等における生態系の保全	・木の駅プロジェクトキックオフイベント（10月開催、6団体参加、39名来場）を行い、里山林の整備と資源の活用についての啓発を行った。また、先進地の視察や木竹の加工作業に要する費用を把握するための実証実験を行った。 ・チェーンソー講習会（R7年1月開催、9名参加）を実施し、森林整備の担い手の育成を図った。 ・藍本駅トイレ等アウトドア施設の維持管理や大船山、高平ナナマツの森等登山道（近畿自然歩道含む）、自然公園の整備・保全を地域の協力を得ながら行うとともに、市ホームページなどを通じて、魅力や情報を発信した。 ・延べ84回の地域別ワークショップを開催し、対象のうち92%の地域で将来の農地利用のあり方を見据えた地域計画を策定した。	○　里山林の整備と資源の活用を目指す木の駅プロジェクトの仕組みづくりに向けて、順調に進行している。また、登山道を整備・保全することにより、市民が自然と触れ合う場を提供できている。	・持続可能な仕組みになるよう検証を行い、具体的な収支計画を立てる必要がある。 ・各登山道内の構造物等の老朽化が進行している。また、日常整備を行う地域住民の高齢化等に伴い、今後の手法等について検討が必要である。
	つなげる	里山の資源活用や生物多様性保全に係る連携	❶野生動物や外来生物に係る情報共有 ❷北摂里山博物館等による隣接する市町や県との連携 ❸北摂里山地域循環共生圏において情報共有、連携	・サルの出没対応やオオキンケイギクの駆除等対策について、県や近隣市町等との情報共有や連携を図った。 ・クビアカツヤカミキリの対応にあたって、兵庫県や専門家の指示を受け、連携した外来種対策の推進を図った。 ・北摂里山博物館との連携事業の中で、「ひょうご北摂里山ライド2024」（R6.10.27開催）が実施され、三田を含む、北摂の里山の魅力発信を図ることができた。 ・神戸市と三田市の里山等自然環境の保全及び活用に係る連携・協力事業にて、三田市新任職員研修に神戸市職員3人が参加し、情報共有や交流を図った。	○　野生動物や外来生物に係る情報共有を県や近隣市町等と行うことができた。また、北摂里山地域での連携事業、情報共有を実施することができた。	今後の具体的な連携内容について協議、検討し、更に活発な取組を推進することが課題である。